

アドミッションポリシー（平成 29 年度入試まで）

カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー（平成 28 年度まで）

美術学部

アドミッション ポリシー	<p>美術学部では、120 年を超える歴史のなかで、美術の各分野において、時代を代表する作家、研究者、教育者を輩出してきました。</p> <p>本学部は、こうした伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たなる時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮できる人材の育成を目的としています。本学部で学ぶ学生には、歴史のなかで蓄積された技芸と知識を修得し、さらにその成果を革新し、発展させ、広く世界の文化と社会のために貢献する能力が望まれます。</p> <p>こうした理念を踏まえ、真摯な姿勢で、教員とともに研鑽を積み、美術の世界に、豊かな収穫をもたらす学生を広く求めています。</p>
カリキュラム ポリシー	<p>美術学部では、美術に関する各分野において本校の長い伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たなる時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮できる人材の育成を目的としている。そのために美術学部では科・専攻ごとの特性を最大限に尊重したカリキュラムを編成しているが、全科・専攻に共通する要項は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 美術に直接関連のある基礎知識や理論、技法等を学び、専門教育の糧とする（専門基礎科目）。 2. 専攻分野について、専門家となるために必要な知識、理論、技法等を学び、創造性を磨く（専門科目）。 3. 芸術感覚、歴史感覚、国際感覚、社会感覚を培い、人間と文化を総合的にとらえる眼を育てる（教養科目）。 4. 創造・研究活動を行ううえで必要とされる健やかな心身を養う（保健体育科目）。 5. 国際的な人的、知的交流を図るために必要な言語能力を養う（外国語科目）。 6. 近畿地方等の古美術を実地に見学、研究することにより、美術・工芸に関する基礎的視野を広げ、各自の研究に資する（古美術研究旅行）。 7. 上記における学習を集大成し、成果を発表する（卒業制作・卒業論文）。
ディプロマ ポリシー	<p>各科・専攻の規定する最低単位数以上を取得した者に対して学士の学位が授与される。各科目における具体的な成績評価基準は、各科・専攻の判断を尊重する。</p>

美術研究科

アドミッション ポリシー	<p>美術研究科では、これまで美術の各分野において、時代を代表する作家、研究者、教育者を輩出してきました。</p> <p>本研究科は、こうした伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たなる時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮し、指導的な立場に立つ人材の育成を目的としています。本研究で学ぶ学生には、歴史のなかで蓄積された技芸と知識を修得し、さらにその成果を革新し、発展させ、広く世界の文化と社会のために貢献する能力が望まれます。</p> <p>こうした理念を踏まえ、自立した姿勢で研鑽を積み、国際的な見地から美術の世界に、豊かな収穫をもたらす学生を広く求めています。</p>
カリキュラム	修士

<p>ポリシー</p>	<p>大学院美術研究科修士課程では、幅広い視野から芸術を理解し、高度な専門性を備えた人材育成を目的としている。このために専攻ごとの特性を最大限に尊重したカリキュラムを編成しているが、全専攻に共通する要項は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士課程の学生は、各専攻に応じてより高度な知識、理論、技法等を学ぶ（必修科目、選択科目、特殊講義、演習等）。 2. 上記における創作・研究活動を集大成し、修士作品、修士論文、もしくは双方を発表する。 <p>博士</p> <p>大学院美術研究科博士後期課程では、芸術について高度な創作・研究活動を行い、専門分野のみならず、社会に豊かな実りをもたらす人材育成を目的としている。このために研究領域ごとの特性を最大限に尊重したカリキュラムを編成しているが、全研究領域に共通する要項は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博士後期課程の学生は、研究領域に応じて、各自の研究の幅を広げ、高度かつ独創的な内容とするための知識、理論、技法等を学ぶ（創作総合研究、造形計画特別演習、文化財保存学総合研究）。 2. 博士後期課程の学生は、主任研究領域特別指導教員及び関連指導教員のもとで高度な専門性を身につける。 3. 上記における創作・研究活動を集大成し、博士論文、もしくは博士作品の双方を発表する。
<p>ディプロマ ポリシー</p>	<p>修士</p> <p>1年以上在学し、2年次修了までに必修・選択あわせて30単位以上の取得見込みの場合、修士作品もしくは修士論文を提出することができる。学位論文等審査委員会が修士作品及び修士論文を評価し、適格と判断された場合に修士の学位が授与される。</p> <p>博士</p> <p>博士後期課程に3年以上在学し、必修・選択科目をあわせて10単位以上取得し、かつ必要な研究領域特別指導を受けた場合、博士論文及び研究作品を提出することができる。学位論文等審査委員会が博士論文及び研究作品を評価し、適格と判断された場合に研究科委員会の承認を得て博士の学位が授与される。なお学位審査にあたっては、公開発表と最終試験が義務づけられる。</p>

絵画科（日本画）

<p>カリキュラム ポリシー</p>	<p>日本画科は作家及び美術にかかわる諸分野での指導的人材の養成を目標としている。これを実現するために本科における研究教育は現代絵画としての創造性の追求と同時に、わが国美術の伝統・精神を継承し、これを発展させることを主軸に据えている。</p> <p>学部：2学年を基礎課程と位置づけ、様々な課題のもと基本的な伝統技法の習得、造形・</p>
------------------------	---

	<p>表現力を養うことを目的とする。また 3、4 学年を発展課程とし、自由課題を主とした作品制作により、前述の事項を前進させ修得することを主眼とする。</p> <p>修士：学部における研究をさらに深め、各自の研究テーマによる作品を制作し、絵画の多様な方向性を探ることを目的とする。実際には、伝統的表現の研究及びそれらを継承、発展させ、創造的な現代絵画を追求する。また、表現を成立させる素材への理解をより一層深める。</p> <p>博士：修士学位取得者がさらに制作研究を推し進めるとともに、思想を掘り下げ、独自の絵画世界を築くことを目的とする。また、論文作成により研究テーマを明確化し、理論的な面においても、研究結果をまとめていく。</p>
ディプロマポリシー	<p>学部：上記カリキュラムポリシーを充たし、卒業要件単位を修得の上、最終学年次の卒業制作に於いて、十分と評価された場合に学士の学位を授与する。</p> <p>修士：上記カリキュラムポリシーを充たし、最終学年次の修士制作に於いて、十分と評価された場合に修士の学位を授与する。</p> <p>博士：当該研究分野担当教員及び関連分野担当教員で構成された学位審査会により、作品と論文の審査が行われ、双方ともに学位にふさわしく、上記カリキュラムポリシーを充たしていると評価された場合に博士の学位を授与する。</p>

絵画科（油画）

カリキュラムポリシー	<p>学部：現在、本専攻は、美術・造形表現の根幹を成してきた、絵を描くということの本質を学び、21 世紀の新しい絵画表現および活動ができる専門家としての能力を養うことを目標としている。この油画実技教育には、絵画表現を軸とした幅広い美術活動を行う油画全教員が指導にあたる。1・2 年次の基礎課程では、さまざまな手法によるドローイング（素描）を習得させ、取材の幅と量を通じて自己発見とテーマ探しを押し進めさせる。加えて油画、版画、壁画、油画技法材料の各実技実習を通じ、各教員の作家としての実践や考え方に触れさせ、絵画表現の歴史と現在における媒体・技術・知識について幅広く知る機会を持たせる。3・4 年次の専門課程では各自のテーマに添った創作研究を行い、必要に応じてより専門的な授業、実習やプロジェクトを受ける。これら基礎課程、専門課程を通じて絵画を中心軸にとり、映像、造形、インスタレーション、そしてそれらを横断する表現の創作研究を行う。卒業生のなかから、世界で活躍する多くの美術家を輩出している。</p> <p>修士：修士課程は自己の表現領域において更に専門的に創作研究を行い、社会に対応する独創性豊かな人材を育成するため、各担当教員の徹底した個別指導のもと独自性を尊重した教育を行う。各研究室では、それぞれ教員と学生の緊密なコミュニケーションが前提となる、主体的な研究・指導を行う。同時に、複数の研究室による共同企画や合同授業によって横断的な連携指導も行う。また、他分野の専門領域の理解を深め、表現内容とその表現手段を、社会と対応する美術表現に結びつける方法を修得するために、学外から数多くのアーティスト、キュレーターや評論家を招き、多角的な側面からの集中講義も開設する。</p> <p>博士：博士後期課程においては博士学位取得を前提とし、制作、理論双方を担当教員とそれをサポートする数名の担当教員によって、より高度で総合的複合的なグループ指導を行う。さらには協定校との交換留学や共同プロジェクトにより国際的美術活動を展開し自己の創作研究活動を社会に向けて発信できる専門家育成のための指</p>
------------	---

	導を行う。
ディプロマ ポリシー	<p>学部：上記カリキュラムポリシーを満たし、最終学年の「卒業制作」に於いて充分と評価された場合に学士の学位を授与する。</p> <p>修士：当該研究分野担当教員及び関連分野担当教員で構成された学位審査会により修了制作の審査が行われ、上記修士カリキュラムポリシーを満たしたと評価された場合に修士の学位を授与する。</p> <p>博士：当該研究分野担当教員及び関連分野担当教員で構成された学位審査会により作品と論文の審査が行われ、上記博士カリキュラムポリシーを満たしたと評価された場合に博士の学位を授与する。</p>

彫刻科

カリキュラム ポリシー	<p>学部：基礎的な造形技術を習得し発展させながら、既成の領域にとらわれることなく、それぞれの学生の資質を生かす創作研究を行う。</p> <p>古美術研修や彫刻論などの講義を通し、豊かな教養を身につけ、現代における彫刻のありかたを探求する。</p> <p>最終学年には彫刻作品を制作し、卒業制作展で公開する。</p> <p>彫刻表現を通して、広く社会に貢献しようとする高い志を持つ人材を育成する。</p> <p>修士：学部で習得した基礎能力や技術を基に、広い視野から、より積極的、専門的な彫刻の表現、研究を行う。</p> <p>最終学年の修了制作展で成果を公開する。</p> <p>博士：修士学位取得者がさらに専門生の高い研究を深める。</p> <p>制作、研究、また学内外における発表や地域と連携したプロジェクト等、実践的な研究活動をもとに、彫刻作品、論文を作成する。</p> <p>最終学年に博士審査展にて研究成果を発表する。</p>
ディプロマ ポリシー	<p>学部：定められた履修単位を習得し、卒業制作で一定の評価を得られた場合に学士の学位を授与する。</p> <p>修士：定められた履修単位を習得し、修了制作が一定の評価を得られた場合に修士の学位を授与する。</p> <p>博士：作品指導と論文指導の教員で構成される審査会において、作品と論文の双方が一定の評価を得られた場合に博士の学位を授与する。</p>

工芸科

カリキュラム ポリシー	<p>学部：工芸基礎実技の修得及び美術に関する研究をおこない、表現能力を養う。</p> <p>1年次及び2年次前期は工芸領域に関わる基礎的な表現と造形感覚を養い、2年次後期からは各専攻に分かれ、専門技術の修得を通して自己の表現を探求する。</p> <p>優れた工芸家として、修得した技能を基に広く教養を深め、幅広く社会に貢献できる人材を育する。</p> <p>修士：各専門分野において創作研究を進め、独自の工芸創作表現の修得を目指し、広く社会に発信出来る人材を育成する。</p> <p>博士：修士学位修得者がさらに高度な専門的研究を深め、国際的な見地から工芸創作表現と理論の確立を目指す。</p>
ディプロマ	学部：所定の授業単位の修得しカリキュラムポリシーを満たし、卒業制作において最終

ポリシー	<p>評価し、学士の学位を授与する。</p> <p>修士：当該研究分野の指導教員及び関連分野の担当教員の下で各自研究テーマに沿って創作研究を進める。</p> <p>修士制作において最終評価し、修士の学位を授与する。</p> <p>博士：当該研究分野の指導教員及び関連分野の担当教員で構成された学位審査会により作品と論文の審査が行われ、その評価をもって博士の学位を授与する。</p>
------	--

デザイン科

カリキュラムポリシー	<p>学部：総合的な視野をもったクリエイターの育成を目指す。そのため学部教育は、学年進行にしたがってデザイン基礎課程から緩やかなかたちでより専門性に近づいていけるシステムになっている。既存の専門領域の枠にとらわれず、各専門課程を共通して学び、学生が自分の可能性を発見し方向づけが行われるようなカリキュラムが編成されている。</p> <p>修士：学生の研究テーマによりそれぞれの研究室（10研究室）に分かれ、より専門的な研究、制作にあたる。2年間を通して各自の研究、制作が主となるが、1年次には共通課題として社会連携プログラムが生まれ、研究室の枠を飛び越えた複合的かつ実践的な教育、研究を行い各自の研究に厚みをもたせるカリキュラム内容となっている。</p> <p>博士：社会的かつ総合的な視野に立ち、専門性がより深化されたデザイン研究を実践する。3年間で各自のオリジナルのデザイン理論を構築するとともに、より独創的で高次の制作研究を行う。各年次を通して科や研究室が企画する社会連携、国際交流などの研究活動に積極的に参加し、研究の幅を広げ、実務経験として役立てる研究指導体制をとっている。</p>
ディプロマポリシー	<p>学部：学部カリキュラムポリシーを満たし、最終学年の卒業制作において充分と評価された場合に学士の学位を授与する。</p> <p>修士：修士カリキュラムポリシーを満たし、担当教員及び関連分野の教員複数からなる学位審査会により修士制作が充分と評価された場合に修士の学位を授与する。</p> <p>博士：科内において作品と論文に対して全教員及び学科外の審査員からなる学位審査会が行われ、博士カリキュラムポリシーを満たし、作品と論文が充分と評価された場合に博士の学位を授与する。</p>

建築科

カリキュラムポリシー	<p>学部：建築科の教育は「建築の設計」の修得に重点を置いていることに特徴がある。幅広く科学的知識や思考力を養うと共に、感受性の鋭さや表現の独自性を追求できる教育システムを編成している。</p> <p>直接的な実技指導を通して、建築に対し強い情熱を持った人間を養成することを目指している。</p> <p>カリキュラムは、専門実技科目（設計製図）と専門学科科目で構成され、その専門実技は学年に応じた設計課題によって段階的に進められる。なお、本カリキュラムは建築士試験指定科目に準拠している。</p> <p>修士：修士課程のカリキュラムは講義科目と実技科目で構成され、講義科目は学部で身に付けた教育内容を基本に、さらに高度かつ専門的な内容を学ぶ内容（建築史・環</p>
------------	--

	<p>境計画・建築構造論・建築都市計画論・建築論など) となっている。実技科目は、所属する研究室で行われるゼミが中心で、教員の指導のもとに、自らの研究テーマを定め実施する。また、建築士試験の大学院における実務経験に係る単位の取得も可能である。</p> <p>博士：修士学位取得者がさらに専門研究を深める。博士後期課程は、所属する研究室を基盤として、博士学位の取得を目指して自らのテーマを深め、その成果を外部に向けて発信する。</p>
ディプロマ ポリシー	<p>学部：上記カリキュラム・ポリシーを満たし、最終学年の卒業制作に於いて充分と評価された場合に学士の学位を授与する。</p> <p>修士：上記カリキュラム・ポリシーを満たし、当該研究分野担当教員及び関連分野担当教員で構成された学位審査会により修士作品または修士論文が充分と評価された場合に修士の学位を授与する。</p> <p>博士：上記カリキュラム・ポリシーを満たし、当該研究分野担当教員及び関連分野担当教員で構成された学位審査会により博士作品または博士論文が充分と評価された場合に博士の学位を授与する。</p>

先端芸術表現科

カリキュラム ポリシー	<p>学部：ドローイング、工作、写真、映像といった「美術」の領域のメディアに加え、身体、音楽、コンピュータなど様々な表現メディアの基礎を身につけ、「これからの芸術とはなにか」について、実践的に学ぶ。制作の側のみならず、芸術支援の総てにおける可能性を持った人材育成を基本理念とする。こうした理論を講義として学ぶとともに、それぞれのスタジオにおいて領域横断的に制作していくカリキュラムが組まれる。</p> <p>修士：学部の教育に引き続き修士課程ではより専門性を高める。しかも狭隘な領域に分断すること無く、1年次には共通のゼミ (Art in Context) を設定し、美術に留まらない幅広い関連分野で活躍する多彩な人材が特別講義や演習などに参加し、さまざまな角度からアドバイスを与え、深く表現について学ぶ。そして共通の展示であるアトラス展を行う。また揺れ動く現実社会と切り結ぶ問題とかかわる「プロジェクト」や実践的な社会に向けた発表に積極的に関わることを推奨する。</p> <p>博士：修士学位取得者がさらに専門研究を深める。自らの専門分野における研究を掘り下げ、また創作と平行しそれらの活動を理論的に裏付ける研究を行う。制作、研究の発表を積極的に行うとともに最終的に博士論文を目指す。</p>
ディプロマ ポリシー	<p>学部：上記カリキュラム・ポリシーを満たし、最終学年の卒業制作において十分と評価された場合に学士の学位を授与する。</p> <p>修士：学科担当教員および関連分野担当教員で構成された学位審査会により修了制作および作品解説論文あるいは卒業論文の審査が行われ、上記修士カリキュラム・ポリシーを満たしたと評価された場合に修士の学位を授与する。</p> <p>博士：当該研究分野担当教員および関連分野担当教員で構成された学位授与審査会により論文と作品の審査が行われ、上記博士カリキュラム・ポリシーを満たしたと評価された場合に博士の学位を授与する。</p>

芸術学科

カリキュラム ポリシー	<p>東京藝術大学美術学部芸術学科は、「伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たな時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮できる人材育成」を教育理念の根幹とし、「美学、美術史学を通して美術を中心とする諸芸術に関する認識を深めることで、理論的分析や解釈をもって多様な芸術の分野に貢献できる人材の育成」という教育目標を実現するため、学科・実技・論文等からなる以下のカリキュラムを実施します。</p> <p>I. 美術学部芸術学科</p> <ol style="list-style-type: none">1. 芸術学科の学生は、1年次に基礎造形実技Ⅰ、芸術学演習Ⅰ・Ⅱを履修し、基礎的な実技と美学・美術史についての知識を身につける。2. 芸術学科の学生は、2年次に基礎造形実技ⅡA・B、古美術研究（演習と研修旅行）を履修し、基礎的な実技についての知識と、わが国の古美術に対する見識を深める。3. 芸術学科の学生は、1～3年次に指定科目（美学・各種美術史概説および美学概論）、共通科目、外国語を履修し、美学・美術史を学ぶための基礎力を身につける。4. 芸術学科の学生は、1～4年次にわたって美学・美術史の特殊講義および演習を履修し、美学・美術史に関する専門知識を身につける。5. 芸術学科の学生は、3年次までに上記1～4の所定の単位を履修し、美学、日本・東洋美術史、西洋美術史、工芸史の各分野のなかから研究分野を決める。6. 芸術学科の学生は、卒業年次に論文作成演習と卒業論文が課せられる。学生は各分野の教員の指導の下に、自ら問題意識をもってテーマを設定し、勉学の集大成としての論文を完成させる。 <p>II. 美術研究科芸術学専攻（美学、日本・東洋美術史、西洋美術史、工芸史）修士課程</p> <ol style="list-style-type: none">1. 修士課程では、研究分野の特殊講義および演習、その他の特殊講義および演習を履修し、高度な専門知識と研究能力を身につける。2. 修士課程では、課題演習により各自の研究成果を発表し、研究者として必要とされるプレゼンテーションおよびディスカッション能力を身につける3. 修士課程では、修士論文を完成し、専門分野に自らの研究を位置づけることが求められる。 <p>III. 美術研究科芸術学専攻（美学、日本・東洋美術史、西洋美術史、工芸史）博士後期課程</p> <ol style="list-style-type: none">1. 博士課程では、創作総合研究、特殊講義および演習、研究領域特別研究指導を履修し、高度な専門性を磨くことが求められる。2. 博士課程では、専門分野の学会における論文発表、研究発表などを積極的に行い、研究成果を専門分野に還元し、また専門家として自立できる力を蓄えることが求められる。3. 博士課程では、専門分野のみならず、周辺領域にわたる幅広い知識と教養を身につけることが求められる。
----------------	--

	<p>4. 博士課程では、博士論文の完成に向けて、自律的に研究遂行能力を高めることが求められる。</p>
<p>ディプロマ ポリシー</p>	<p>東京藝術大学美術学部芸術学科は、「伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たな時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮できる人材育成」を教育理念の根幹とし、「美学、美術史学を通して美術を中心とする諸芸術に関する認識を深めることで、理論的分析や解釈をもって多様な芸術の分野に貢献できる人材の育成」という教育目標を実現するために学科・実技・論文等からなるカリキュラムを実施しています。このカリキュラムを踏まえて学位を取得するためには以下のことが求められます。</p> <p>I. 美術学部芸術学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術学科の学生は、所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに定められた各講義を履修し、単位を取得しなければならない。 2. 芸術学科の学生は、卒業論文の提出により学士の学位を取得することができる。卒業論文は、芸術に対する理論的分析や解釈などにおいて十分な基礎力の発揮が求められる。学科所属の常勤教員が卒業論文を審査し、学士の学位を授与する。 <p>II. 美術研究科芸術学専攻（美学、日本・東洋美術史、西洋美術史、工芸史）修士課程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士課程では、所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに定められた各講義を履修し、単位を取得しなければならない。 2. 修士課程では、修士論文の提出により修士の学位を取得することができる。修士論文は、研究動向の正確な把握と調査、テーマに適した研究方法の採択、論理的整合性、独創性がなければならない。学位論文等審査委員会が修士論文を評価し、修士の学位を授与する。 <p>III. 美術研究科芸術学専攻（美学、日本・東洋美術史、西洋美術史、工芸史）博士後期課程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博士後期課程では、所定の年限以上在籍し、カリキュラム・ポリシーに定められた各講義を履修し、単位を取得しなければならない。 2. 博士後期課程では、博士論文の提出により博士の学位を取得することができる。博士論文は、当該専門分野において新たな知見を寄与する高度かつ独創的な内容でなければならない。学位論文等審査委員会が博士論文を評価し、研究科委員会の承認を経て、適格と判断された場合に博士の学位を授与する。なお学位審査にあたっては、公開発表と最終試験が義務づけられる。 <p>教育研究体制としては、美学、日本・東洋美術史、西洋美術史、工芸史の4つの研究室が設置されています。学部の1、2年次では美術に関する広範な知識を身につけることを目的としたカリキュラムが組まれています。3、4年次と学年が進む中で自分の専門とする研究領域を定め、4年次ではその専門領域に応じた研究室の指導によって、卒業論文を執筆することが求められています。</p>

	<p>大学院では、専門ごとに所属する研究室の教員の指導を受けることとなります。修士課程では、さらに専門性の高い研究論文を執筆することが目標となり、博士後期課程では、研究者として独自の成果を発表することのできる能力の習得が求められます。</p>
--	---

芸術学専攻（美術教育）

カリキュラムポリシー	<p>修士：各自の実技の専門分野について研究を深める。また、各自の課題意識に基づいた理論研究を行う。素材論・構成論・美術教育論によって、美術と教育との関係を考察するとともに制作・理論を通して自らの美術教育観を深める。また、研究成果を課題研究において発表する。1年次にそれぞれの研究テーマを設定し、2年次には修了制作・修士論文に取り組む。</p> <p>博士：修士課程取得者がさらに専門研究を深める。制作研究で各自の専門分野における専門性を高めるとともに、理論研究では学術論文作成に向けた調査研究・学会発表などに取り組む。制作・理論を通して自らの美術教育観を確立し、社会における美術教育の重要性を研究、実践を通して発信していく。</p>
ディプロマポリシー	<p>修士：上記カリキュラムポリシーを満たし、所定の単位を修得した上で、最終学年において修了制作展に修了作品を展示発表する。また、修士論文発表会で修士論文について発表を行い、両者の審査において学位授与に相当すると評価された場合に修士の学位を授与する。</p> <p>博士：上位カリキュラムポリシーを満たし、所定の単位を修得した上で、修了作品の展示と博士學位論文の公開発表を行い、当該研究分野担当教員及び関連分野担当教員で構成された学位審査会における審査と最終試験に合格した場合に博士の学位を授与する。</p>

芸術学専攻（美術解剖学）

カリキュラムポリシー	<p>II. 美術研究科芸術学専攻（美術解剖学）修士課程</p> <p>東京藝術大学美術学部芸術学科は、「伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たな時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮できる人材育成」を教育理念の根幹とし、「美術解剖学を通して美術を中心とする諸芸術に関する認識を深めることで、理論的分析や解釈をもって多様な芸術の分野に貢献できる人材の育成」という教育目標を実現するため、学科と論文等からなる以下のカリキュラムを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士課程では、研究分野の特殊講義および演習、その他の特殊講義および演習を履修し、高度な専門知識と研究能力を身につける。 2. 修士課程では、課題演習により各自の研究成果を発表し、研究者として必要とされるプレゼンテーションおよびディスカッション能力を身につける。 3. 修士課程では、修士論文を完成し、専門分野に自らの研究を位置づけることが求められる。 <p>III. 美術研究科芸術学専攻（美術解剖学）博士後期課程</p>
------------	---

	<p>東京藝術大学美術学部芸術学科は、「伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たな時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮できる人材育成」を教育理念の根幹とし、「美術解剖学を通して美術を中心とする諸芸術に関する認識を深めることで、理論的分析や解釈をもって多様な芸術の分野に貢献できる人材の育成」という教育目標を実現するため、学科と論文等からなる以下のカリキュラムを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博士課程では、創作総合研究、特殊講義および演習、研究領域特別研究指導を履修し、高度な専門性を磨くことが求められる。 2. 博士課程では、専門分野における論文発表、研究発表などを積極的に行い、研究成果を専門分野に還元し、また専門家として自立できる力を蓄えることが求められる。 3. 博士課程では、専門分野のみならず、周辺領域にわたる幅広い知識と教養を身につけることが求められる。 4. 博士課程では、博士論文の完成に向けて、自律的に研究遂行能力を高めることが求められる。
<p>ディプロマ ポリシー</p>	<p>II. 美術研究科芸術学専攻（美術解剖学）修士課程</p> <p>東京藝術大学美術学部芸術学科は、「伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たな時代に対応し、優れたオリジナリティを発揮できる人材育成」を教育理念の根幹とし、「作品の制作を体験し、美術解剖学を通して美術を中心とする諸芸術に関する認識を深めることで、理論的分析や解釈をもって多様な芸術の分野に貢献できる人材の育成」という教育目標を実現するためにカリキュラムを実施しています。このカリキュラムを踏まえて学位を取得するためには以下のことが求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士課程では、所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに定められた各講義を履修し、単位を取得しなければならない。 2. 修士課程では、修士論文の提出により修士の学位を取得することができる。修士論文は、研究動向の正確な把握と調査、テーマに適した研究方法の採択、論理的整合性、独創性がなければならない。学位論文等審査委員会が修士論文を評価し、修士の学位を授与する。 <p>III. 美術研究科芸術学専攻（美術解剖学）博士後期課程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博士後期課程では、所定の年限以上在籍し、カリキュラム・ポリシーに定められた各講義を履修し、単位を取得しなければならない。 2. 博士後期課程では、博士論文の提出により博士の学位を取得することができる。博士論文は、当該専門分野において新たな知見を寄与する高度かつ独創的な内容でなければならない。学位論文等審査委員会が博士論文を評価し、研究科委員会の承認を経て、適格と判断された場合に博士の学位を授与する。なお学位審査にあたっては、公開發表と最終試験が義務づけられる。

文化財保存学専攻

<p>カリキュラム ポリシー</p>	<p>修士：文化財の保存修復、保存科学、システム保存学に関する教育研究をとおして、文化財保存に寄与する専門家を育成する。</p>
------------------------	--

	<p>保存修復は日本画、油画、彫刻、工芸、建造物に分かれ、それぞれに応じた修復技術の教育研究、併せて古典技法の教育研究を行う。保存科学は文化財測定学と美術工芸材料学に分かれ、それぞれの教育研究を行う。システム保存学は保存環境学と修復材料学に分かれそれぞれの教育研究を行う。</p> <p>保存修復、保存科学、システム保存学とも最終学年に学位申請にかかる発表を行う。</p> <p>博士：修士のカリキュラムをさらに高いレベルの研究に発展させ、実践的、創造的、指導的能力を備えた文化財保存に寄与する専門家を育成する。</p> <p>社会に貢献できる有為の研究者を育成するために、各専門分野における最新の学術研究の成果を反映させた研究指導を行う。</p> <p>保存修復、保存科学、システム保存学とも最終学年に学位申請にかかる発表を行う。</p>
<p>ディプロマ ポリシー</p>	<p>修士：当該研究分野担当教員および関連分野担当教員で構成された学位審査会で研究成果が審査され、修士のカリキュラム・ポリシーを満たすと評価された場合に修士の学位を授与する。</p> <p>博士：当該研究分野担当教員および関連分野担当教員で構成された学位審査会で研究成果が審査され、博士のカリキュラム・ポリシーを満たすと評価された場合に博士の学位を授与する。</p>